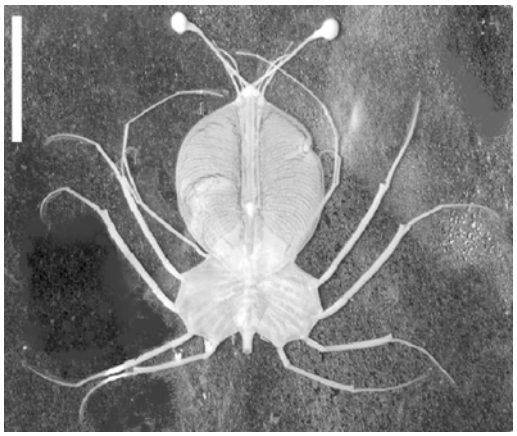
中部大西洋で採集された後期フィロソーマ幼生の同定

小西光一[1)4)]・鈴木伸明[2)]・張　成年[3)]

1) (独)水産総合研究センター養殖研究所
2) (独)水産総合研究センター遠洋水産研究所
3) (独)水産総合研究センター中央水産研究所
4) 現所属:(独)水産総合研究センター中央水産研究所

水産庁調査船「照洋丸」による中部大西洋海域の調査航海において，イセエビ属(*Panulirus*)で種名が不明な後期フィロソーマが1個体採集された(下図参照)。大西洋のイセエビ属は *P. argus, P. echinatus, P.guttatus, P. laevicauda, P. regius* の5種が知られている。本種の同定のため，標本の 16S rDNA 部分配列を決定し，データベースにあるイセエビ属全種のものと比較した。その結果，本サンプルは *P. echinatus* のものと一致した。



(左上のスケールは 10mm)

この一方で，上記5種のイセエビ属の中では，本種のみがフィロソーマの記載例がなく，形態の記載を行うと共に既知4種との比較を行った。これにより，大西洋産のイセエビ属すべてのフィロソーマの形態が，少なくとも後期については，記載されたことになる。本種のフィロソーマは同海域の同属の4種とは，1)頭部と胸部の幅の比，2)第 2 顎脚の左右底節を結ぶ線の中点から口器前端までの距離(b/a 値)，および3)胸脚の突起類により，判別が可能である。

かつて McWilliam(1995)は形態によるフィロソーマのグループ分けを行い，その中で当時未知であった本種のフィロソーマについて，Gurney(1936)がプランクトン試料から記載した“Phyllosoma B”を本種のものと仮定した上で，グループ1である可能性を提示したが，今回の結果からはグループ2に属することが分かった。したがってGurneyが記載したフィロソーマは本種のものではないと考えられる。